

## BSL4施設坂本キャンパス設置計画の中止要求書

長崎大学学長 片峰 茂 様

平成28年3月30日  
BSL4施設の坂本キャンパス設置に  
反対する地元自治会連絡会

私たち浦上地区住民は、BSL4施設を坂本キャンパスに設置する計画の速やかなる中止を要求します。

理由は以下に述べるとおりです。

### 【長崎大学と長崎市民・地元住民との長い信頼の歴史】

これまで長崎大学と長崎市民・地元住民（以下、住民と呼びます）には、互いを尊重し共存・共生の関係を続けてきた百有余年にも及ぶ長い歴史があります。その間には、浦上の地は原爆という未曾有の惨禍に見舞われ、長崎大学も市民も共に壊滅的な打撃を被りました。

そういう地獄の底にいるような時にも、長崎大学は住民を懸命に助けてくれました。住民はそうしてくれた長崎大学に尊敬と誇りを抱きながら共に復興に励んだ結果、浦上の地は、坂本キャンパスをも包みながらようやく世界平和発信の街・安らかな生活の街としてよみがえりました。

私たちは長崎大学の尊い貢献の歴史を決して忘れることはありません。

ところが、片峰学長（以下、“あなた”と呼びさせていただきます）の代になって、唐突にBSL4施設の設置構想が掲げられました。しかしこれは住民にとって寝耳に水の事であり、自分の庭のような所に、突然 危険な施設の受入れを迫られるという理不尽さに直面して戸惑うばかりでした。

残念ながら、この計画は住民の信頼を一気に裏切る愚かな行為と言わざるを得ません。これまでの相互尊重・信頼の歴史が、わずか一代の学長によってすべて台無しになってしまうのは実に残念でなりません。

### 【動機と住民との関係】

そもそも、その動機が、気宇壮大ではありますが、住民とは直接の関係の無い、住民の思いとは遊離したあなたの野望そのものでした。

あなたは、『BSL4施設が無ければ国家の危機管理上由々しき問題』だとか、『国際的に研究が後れをとり由々しき問題』などと、機会あるごとに述べてきました。その構想は雄大です。それはしかし、住民が支援することのできない、独りよがりのものでしかないことに気が付いて戴きたい。なぜならば、その施設の坂本設置はあまりにも住民へのリスクが大きく、住民を必然的に巻添えにしなければ成り立たない構想だからです。しかも、長崎大学の発展の目玉にするとか長崎市の経済活性化に資するなど、不遜な動機も見え隠れしています。

もし国家の危機管理上、BSL4施設を用いた研究が必要なのであれば、長崎大学でなくとも

日本のどこで研究されようと住民にとっては何の問題もありません。また、長崎大学の発展も、そのような大きなリスクと引き換えにしてまで住民が望むことでは全くありません。

### 【大学の姿勢と目線】

さらにこの計画を進めるあなたの態度・姿勢が到底信頼できるものではありません。あなたに『この設置計画を進めるに際し、自分は住民を十分に尊重して来た』などとは言わせません。あなたが、議員や行政のトップや地域の有力者のみと話を通じ、有識者会議からしか話を聞かず、一般住民の発言を封じた会議で万事を進め、住民の多数の反対を知りながら素知らぬ顔で予算要求する、その一方で何の力もない一般住民とは真剣に向き合ってきた、などということは周知の事実です。

最近では特に、大学・市・県との三者協議会で、未だ設置の可否をめぐる議論をしているその最中に、『坂本地区における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会（仮称）のイメージ』なる議案を提出したことを批判しなければなりません。長崎市出席者からは何度も異議を出され、それに対してすら真摯に答えようとしぬ厚顔無恥ぶりは、住民のことを全く顧慮していない明白な証拠と言えます。

さらに、説明会といえば上から目線の尊大な安全神話の一方的押し付けやBSL4施設の必要性に関する虚偽の説明ばかりです。また、住民の意見を反映するためのアンケート意見調査においては、住民の率直な気持を知ろうとせず、あなた方は逆に調査実施の妨害や調査結果の公表阻止のために圧力をかけたりしました。それらがどんなにストレスを住民個人に与えて来たか、あなたは想像もできないでしょう。このような、学問の府である大学にあるまじき裏工作を行って来たことも記さねばならないのは、まことに残念です。

このような姿勢・態度の人たちが進める計画は、残念ながらいくら安全を説かれても信用することはできないのです。

### 【住民への説明と安全神話】

あなたがいかに施設は安全だと強弁しようと、それらは所詮、安全神話を信じるか信じないかの問題に過ぎません。安全神話とは、想定外のことが起こりうるという謙虚な姿勢を失った状態にほかなりません。あなたの姿勢はまさにそれそのものです。

あなたは当初、エボラウイルスがいかに脅威であるか、施設が無いと国家の安全がいかに脅かされるか、施設があれば住民はいかに安心できるかを強調していました。ところが、施設そのものが感染源になるリスクの方がはるかに高いことに住民が気付いて、その不安が高まると、今度は、ウイルスは放射能とは違う、ウイルスはいかに感染力が弱い、すぐに死ぬから本質的に危険はない、などと言い始めました。一体どちらが本当なのですか？

さらには、エボラの脅威で住民の恐怖を煽って施設の必要性を力説するかと思えば、一方、住民のBSL4施設からの病気の蔓延に対する不安が大きいのを見て取ると、今度は日本のような先進医療国ではアフリカのような流行にはならないなどと平気で前言を翻します。一体どちらが本当なのですか？

ウイルスを舐めてもらっては困ります。自然的でも人為的でも、ウイルスがどんな危険なものに変異するかは誰にもわからないことを住民は知っています。あなたや推進者たちがそのことを軽視した楽観的な態度に呆れると同時に恐怖すら覚えます。一度原発の安全神話が崩壊したことを学習した住民を舐めてもらっては困ります。

### 【万一の際の責任の問題】

さて、BSL4施設を長年稼働する間には、万一の事故とか不祥事とかテロなどが生じることを

想定する必要があります。そのことにあなたは同意されますか？

同意しない、つまり、万一のことは事故でも不祥事でもテロでも、起きることを想定する必要はないとお考えであれば、あなたは安全神話信奉者であって、そのような人は組織のリーダーにはふさわしくありません。そのような人の構想や計画には耳を傾けるわけにはいきません。

それとも、もし同意されるなら、あなたは現実的な人だという評価はできます。しかし、それならば二つの問題についてあなたは明確に解答する必要があります。すなわち、

- ① 万一の際には浦上の住民は実験者ともども真っ先に被害をこうむることになりますが、そのような犠牲を住民は受容すべきだとお考えですか？あるいはその確率は大変低いから、無視すべきだとお考えですか？
- ② 万一の問題が生じた場合の責任は一体誰が引き受けることになりますか？

①については、いくら確率が低くても、住民は取り返しのつかない被害を覚悟することはできないことをここに正式にお伝えしておきます。

②についても住民は大変心配しています。なぜなら、この問題は一地方大学長、一地方大学で責任を取れるものではない、それにも拘らず国にも未だそのような責任体制はできてないからです。

たとえ個人的な不注意が原因で万一の事故が起こったとしても、その注意を怠った人にのみ責任を押し付けることはできません。そのようなシステム、施設の運営の在り方、施設の設計、設置承認のやり方、設置場所、そして組織における人間尊重の度合いなどいろんな要素が絡み合った所為で事故は生じます。そういう時の責任体制を確立しておくことは非常に重要な安全対策です。しかし、我が国には、未だ設置審査基準等は無難なこと、その責任を引受ける組織自体、存在しません。

原発においては曲がりなりにも原子力規制委員会と規制基準が存在し、人が変わったとしてもその組織が一定の範囲の責任を負うことになります。ところが、BSL 4施設に関してはそれに相当するものはありません。人が変われば後には何も残らないのです。

そのようなものをあなたは坂本に造ろうとしておられるのです。そのまま残して行ったら無責任と思いませんか？

### 【浦上の地における生活と施設】

あなたは坂本キャンパスのある浦上の歴史を一体どのように考えておられますか？あなたが坂本キャンパスへの設置を構想し始めた時、ここが住宅密集地であること、キリスト教弾圧の歴史の舞台であったこと、爆心地浦上であること、さらにはそのような苦難の歴史を受け継いできた住民のこと、それらについて一度でも思いを馳せたことはおありですか？

施設がいったんできてしまえば、住民は取り返しのつかない被害に遭う覚悟をしなければなりません。それは住民の生活様式、生活環境を一変させ、住民はこの故郷を捨てざるを得ない所まで追い込まれてしまいます。住民はそのような惨めなことにはなりたくないし、それを強要されるいわれはありません。そのような恐れのある危険施設については、そもそも設置に関する話し合いの余地などありません。住民はこれからも子や孫の世代に引き継いでいかなばならないのです。

今や浦上の地は核兵器の無い世界平和発信のシンボルの地ともなり、多くの人々が訪れます。しかし、万一のことがあればこれら平和の原点を訪ねる人々をも災厄に巻き込む恐れが生じます。

そのような可能性を知ったら、訪れる人も減っていくことでしょう。

いたずらのテロ予告があっただけで、と想像したことがおありですか？それだけで周辺は厳戒状態になり、観光客も来訪を見合わせるでしょう。長崎経済の活性化に資するどころではありません。

坂本キャンパスにBSL4施設ができると、それは世界で最も警戒の手薄な施設としてテロ組織の格好のターゲットになるでしょう。あなたはバイオ兵器を用いたテロ攻撃のリスクをしきりに強調されますが、逆に施設の存在によって長崎だけ目立つことになり、テロのリスクは逆にとても高くすることに気が付いてください。逆に施設がテロを呼び寄せることになってしまいます。

### 【設置場所について】

あなたは最初の構想の時点から、坂本キャンパス設置ありきでおられたようです。なぜなら、いろいろな候補地に関して詳細に比較検討した資料が見当たらないからです。三者協議会などで設置場所としての比較資料を提示したりされましたが、そこでも具体的な候補地として真剣に検討した形跡が見当たりません。従って、住宅密集地に設置するリスク、住民に万一の取り返しのつかない被害を及ぼすリスクについて、あなたは初めから度外視しておられたこととなります。そのような態度は、高潔な人格と優れた見識を有しているはずの学長にふさわしいものと言えるでしょうか？

そして、三者協議会における比較においてさえ、研究する側の都合だけを考慮したもので、比較項目に住民のリスク評価に関するものは全くありません。これだけからも、住民のことは何にも考慮していない事がわかります。

先に『安全神話は成り立たない』ことを申し上げましたが、その場合にリスクを小さくできるファクターが、『距離』というものです。原発の立地でわかるように、『設置場所』が安全リスクを考える上で本質的に重要となります。すなわち、BSL4施設でも万一の事故等が起こることを想定しなくてはなりませんが、その場合、住民に被害が及ぶリスクをできるだけ小さくするには住民との距離を大きく取るしか方法はないのです。

従って、そのような安全な距離がゼロである坂本キャンパスに設置することは、絶対に認めることはできません。武蔵村山市の感染研も、厚労大臣と武蔵村山市長が取り交わした文書には、数年後に移転する約束が書かれています。

先日、『国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画（案）』がまとめられましたが、それによれば、現在の所、BSL4施設を中核とした感染症研究拠点として、長崎大学が第一候補のようです。国は『長崎大学の検討・調整状況等を踏まえつつ』BSL4施設を中核とした感染症研究拠点形成に必要な支援を行うとのことですから、このチャンスを活かすためにも、場所の選定からやり直したらいかがでしょうか。

### 【結び】

私たち住民が坂本設置計画の中止を要求する理由は以上の通りです。今後あなたが坂本キャンパスへの設置にこだわり、強引に計画を進めていくようであれば、私たちとしては法的措置等あらゆる合法的手段を以って坂本キャンパスへの設置計画の中止を要求し続けます。

私たちは地元の長崎大学が発展することや名誉ある地位を得ることを心から願っています。しかしながら、それらが住民の犠牲を伴うような発展であるならば本末転倒です。どうかこれまでの良き共存・共栄・共生の関係を損なうことの無いよう、心からお願い申し上げます。